

## 太平洋津波博物館と協定を締結しました（2022/4/12）

テーマ：MOU、国際交流、博物館、展示、2011年東日本大震災、語り継ぎ、文化の記憶、教育

場所：太平洋津波博物館（ヒロ・ハワイ）

2022年4月12日、災害科学国際研究所と太平洋津波博物館（PTM）の間で協定（MOU）が締結され、ハワイ島ヒロのPTMで調印式が行われました。MOUは、PTMのMarlene Murray社長兼CEOと当研究所の今村文彦所長が調印しました。調印式には、PTMの共同創設者であるWalter Dudley博士、当研究所の教員であるマリ・エリザベス准教授（国際研究推進オフィス）、ゲルスタ・ユリア助教（災害文化アーカイブ研究分野）が出席しました。今村所長は、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）、鈴木通江限定正職員（広報室）とともに、オンラインで参加しました。

当研究所とPTMは、ここ数年、防災教育における博物館・アーカイブの役割に関するシンポジウムやワークショップの開催・参加をはじめ、防災の教訓を共有するための様々なプロジェクトで協働しています。最近では、当研究所の教員がヒロを訪問した際に共同で企画した、2011年の東日本大震災に関する新しい展示がPTMで公開されました。この展示は、マリ准教授、ゲルスタ助教、柴山准教授と共同で企画し、日本国内の多くの協力者の支援によって実現しました。今回のMOUは、こうしたこれまでのプロジェクトや共同活動を踏まえ、博物館を通じたリスク低減教育における国際的な連携を強化するための次のステップとなります。

現在、PTMのオーラルヒストリーなどのアーカイブのデジタル化、そのコンテンツの分析、現地ガイドツアーでの災害語り部などのコンテンツの共同開発など、今後の連携について検討中です。また、ハワイと日本の強力なパートナーシップにより、災害リスクに対する認識を高めるためのワークショップやその他のイベントを通じて、災害リスクに関する知識や経験の情報交換を続けていきます。

文責：マリ・エリザベス（国際研究推進オフィス）

ゲルスタ・ユリア（災害文化アーカイブ研究分野）

（次頁へつづく）



MOU 調印式は、ハワイと日本で教員が参加するハイブリッド形式で開催されました。



今村教授と柴山准教授がオンラインで参加



今村教授からのご挨拶



PTM 社長兼 CEO の Marlene Murray 氏による MOU への署名



左から、ゲルスタ・ユリア助教、マリ・エリザベス准教授、Marlene Murray 氏、Walter Dudley 博士。  
 PTM の新しい 3.11 の展示の前で署名された MOU